

日本人と仏像

村田 靖子^{せい}

◆仏教と仏像の公伝

538 (欽明天皇 7年) 百済の聖明王、始めて仏像、経説並びに僧等を度し奉る。(『上宮聖徳法王帝説』)
百済の聖明王、太子像並びに灌佛之器一具、及び説仏書卷一篋を度し而言、當聞、仏法既是世間無上之法、其國亦応修行也。(『元興寺伽藍縁起並流記資財帳』)

552 (欽明天皇 13年) 百済の聖明王、怒唎斯致契等を遣わして釈迦仏金銅像一軀幡蓋若干、経論若干卷を献ずる。

欽明天皇「西^{にし}蕃^{のとりのくに}の献^{たてまつ}れる仏の相貌端^{かおきらきら}厳^{もつぱ}し、全^{いま}ら未^{かつ}だ曾^{うやま}て有^ありず礼^{うやま}ふべきや否^{いな}や」(『日本書紀』)

◆大陸文物の伝来と仏教の興隆

554 (欽明天皇 15年) 百済より易博士、曆博士、医博士、採薬師等の来朝。

577 (敏達天皇 6年) 百済より経論、僧尼、律師、禪師、呪禁師、造仏工、造寺工献上。

584 (敏達天皇 13年) 鹿深臣、百済から弥勒石像を将来。蘇我馬子、宅の東に仏殿をつくり、石像を安置する。

587 (用明天皇 2年) 蘇我馬子、飛鳥寺造営を発願。(仏教を効果的な儀礼として受け入れ、治病延命などを祈る)

588 (崇峻天皇 3年) 百済、仏舎利を献じ、併せて僧、寺工、露盤博士、瓦博士、画工を送る。

飛鳥の衣縫造祖樹葉の家を懐して法興寺(飛鳥寺)の着工。

593 (推古天皇元年) 推古天皇即位(豊浦宮)。聖徳太子摂政となる。

594 (推古天皇 2年) 仏教興隆の詔。

◆日本最初の仏像

605 (推古天皇 13年) 天皇、詔して鞍作止利を造仏工に任じ(飛鳥寺)銅・續各一の丈六仏像を作らせる。
高句麗の大興王、黄金三百両を献上。

609 (推古天皇 17年) 飛鳥寺の完成(一塔三金堂式)本尊の完成(丈六金銅三尊)

◆その後の仏像の展開と仏像制作の動機

□飛鳥時代(538~670) —正面観照性から側面・斜め観照性へ

金銅如来坐像(飛鳥大仏)(元は^{もみかげざ}裳懸座の三尊像) 609年 止利仏師作

金銅如来三尊像(法隆寺金堂本尊)(裳懸座、古式菩薩像) 聖徳太子夫妻の冥福を祈る。

推古 31年(623) 鞍作止利作

木造救世観音立像(法隆寺夢殿本尊)(古式菩薩像) 聖徳太子の等身像説、聖徳太子の追福(629~641?)

木造菩薩半跏思惟像(京都・広隆寺)(左足踏み下げ、右手は頬に)古新羅・7C初か? 太子を弔うため。

推古 17年(607) 第1回遣隋使派遣

舒明 2年(630) 第1回遣唐使派遣

大化元年(645) 孝徳天皇の仏法興隆の詔

天智 9年(670) 法隆寺火災

□白鳳時代（671～709）—若々しい人間像

天武13年（685）諸国每家仏舎を作り仏像及び経を置かしむ。

金銅旧山田寺仏頭（興福寺）蘇我倉山田石川麻呂の冥福を祈る。天武14年（685）

金銅阿弥陀三尊像（橘夫人厨子）（法隆寺）光明皇后の母、橘三千代の念持仏。

□天平時代（710～793）—理想的写実主義を目指して（古典期）

塑造仁王像・阿形、吽形（法隆寺中門）（現在最古の仁王像）寺の入口を固める。和銅4年（711）

金銅薬師三尊像（薬師寺金堂本尊）元は持統天皇の病治癒を祈る。710年代～20年代？

天平13年（741）聖武天皇国分寺を造らしむ。（一説738年）国分僧寺、国分尼寺
（疫病、飢饉による社会的・政治的不安から）

金銅盧舎那仏坐像（東大寺大仏殿）国家鎮護。行基の民衆動員力。天平勝宝4年（752）

乾漆鑑真和上像（唐招提寺御影堂）正しい戒律を伝えた唐の高僧。

木彫諸像群（唐招提寺）鑑真に同行した唐仏師等に依る。反古典的。平安木彫仏へ影響。

僧尼は国家安寧の祈願者としての役割。

天皇・中宮の病い平癒を祈り一挙に多数を得度。

呪術的機能に対する期待（護国經典による国家安泰・五穀豊穰・攘災招福）

□平安時代（794～1185）

◎前期（弘仁・貞観時代）—反古典と密教像

木造薬師如来立像（京都・神護寺本尊）道鏡を廃する和氣清麻呂の意志が籠められた怒りの相。

木造十一面観音立像（奈良・法華寺本尊）国分尼寺（元は皇后宮）。光明皇后の姿を写す（一説）。諸民救済。

延暦23年（804年）最澄・空海入唐。（805）最澄帰朝。（806）空海帰朝。

木造梵天像（東寺講堂）（万有の根元の神格化、官能的表現）

木造五大明王像（東寺講堂）（菩薩の变化身）

寛平6年（894）遣唐使廃止

密教的世界の構築、諸難撃退。

◎後期（藤原時代）—和風彫刻と浄土思想

木造阿弥陀如来坐像（平等院・鳳凰堂）極楽浄土の現出。藤原頼通発願。天喜元年（1053）定朝作

木造九体阿弥陀像（京都・浄瑠璃寺）臨終に際し、浄土に導く仏。嘉承2年（1107）又は1047年

石造弥勒如来坐像（長崎県・壱岐の経塚出）経を中に入れる（埋経）。願主は土地の豪族たち。

□鎌倉時代（1185～1317）—人体に迫る写実主義

木造阿弥陀如来坐像（静岡・願成就院）北条時政の発願。文治2年（1186）運慶作

木造阿弥陀如来三尊像（神奈川・浄楽寺）東国の武将 和田義盛の発願。文治5年（1189）運慶作

木造仁王像・阿形、吽形（東大寺南大門）南都復興。建仁3年（1203）阿形・快慶、吽形・定覚、湛慶ら
12人

木造無著・世親像（興福寺・北円堂）（法相宗の高僧）南都復興。建暦2年（1212）運慶作

日蓮（法華宗）の悪人成仏の教説は武士を肯定。武士及び農民・商人へと広まる。

石造弥勒如来・地藏菩薩立像（奈良市春日奥山・滝坂磨崖仏）性勸が母の菩提を弔う。文永2年（1265）

石造地藏菩薩立像（上記の像の左側）性勸が自らの為に。同年

石造釈迦三尊像（左・弥勒如来、右・五髻文珠）（京都市・善導寺）庶民信仰。弘安元年（1276）